

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272100942		
法人名	有限会社ひかりの里		
事業所名	グループホームひかりの里		
所在地	〒038-2411 青森県西津軽郡深浦町風合瀬字大磯195番地16		
自己評価作成日	平成26年6月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成26年7月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>事業所からは海や山が一望でき、景色も良く、事業所内も明るく、過ごしやすい環境です。地元で採れる山菜や近くの家から捕れる新鮮な魚等をメニューに取り入れ、馴染みの味を楽しんでいただいています。 天気の良い日は散歩に出かけたり、地域の祭りに参加し、地域の人々とのふれあいを大切にしています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>自然豊かな環境の中、地域に開かれたホームである。 経営者の「地元に対する愛着」と「地域貢献したい」という思いからホームの開設に至っており、利用者一人ひとりを大切にされた支援がなされている。 ホームでは利用者一人ひとりのレベルに応じた自立を目指しており、利用者が自分らしい生活ができるよう、職員が一丸となって、日々のサービス提供に取り組んでいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を作成し、施設内に掲示しています。朝の申し送り際には、理念を唱和しています。職員全員が理解し、目標を掲げ、取り組んでいます。	管理者及び職員は地域との関わりや交流を大切に考え、地域に根差した、利用者本位を掲げた理念を作成している。ホーム内に理念を掲示している他、職員は理念を共有するために、朝の申し送り時に読み上げ、日々のサービス提供場面で理念を反映できるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域懇話会を主催したり、保育園や小学校の行事への参加、慰問、近隣の散歩等を通じて、地域交流を大切にしています。	日頃から近隣へ散歩に出かけている他、地元の保育園児や老人クラブ等の訪問があり、交流を図っている。また、毎週月曜日に集会所で行われる体操教室に参加している他、地元の祭りの神楽にも参加する等、地域に密着して、交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人への支援の方法や対応の仕方、介護研修会で学んだ事について、地域住民を集めて、講話会や勉強会を実施しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、報告、問題点を話し合い、意見交換する事により、気づきやサービスに関する助言が得られています。出された意見はサービス向上に活かしています。	2ヶ月に1回、定期的に運営推進会議を開催しており、地域包括支援センター職員や民生委員、利用者や家族等が参加し、多様な話題提供がなされている。会議ではホームの取り組み状況等を報告している他、サービス評価の実施と活用状況についても説明し、意見をいただいている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括ケアセンターの会議に参加し、運営や現場の実情を伝え、サービスの課題、解決に向けて協議しています。	利用者の入退所や日常生活に関わることを頻りに相談しており、役場と一緒に利用者支援に取り組む関係が構築されている。また、運営推進会議に役場職員が参加している他、自己評価及び外部評価結果や目標達成計画についても報告している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々のケアに工夫を取り入れ、身体拘束しないケアに努めています。「身体拘束の対象となる具体的な行為」の資料を取り寄せ、職員は理解しています。マニュアルを作成し、勉強会をしています。	身体拘束がもたらす利用者への影響について勉強会を行い、日々の業務の中でも常に話し合いを行っている他、マニュアルを整備し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、近隣住民とは顔馴染みの関係であり、万が一の無断外出時には協力が得られるような体制が構築されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、社内研修で虐待防止法について学んでいます。管理者は職員に対して、虐待についてのあり方や対応について指導し、職員は共有しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、社内研修で講師を迎え、権利擁護に関する事を勉強しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族に理念やケアの方針について説明し、納得してもらった上で契約を結んでいます。訪問の際、不安や疑問点等について尋ね、十分な説明を行い、納得していただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に意見や要望がないか聞いています。そこで出された意見や要望はその都度話し合い、日々のケアに取り入れ、改善しています。外部にも意見が出せるように、案内を掲示しています。	苦情相談窓口をホーム内に掲示している他、利用者や家族が運営推進会議に参加し、外部に意見を出せる機会を設けている。また、ホーム便り等でも利用者の暮らしぶりを報告し、家族等が意見を出しやすいように働きかけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議や毎日の申し送りを通じて、意見や提案を聞く機会を設けています。そこで話し合われた事を申し送りノートで職員に伝え、日々のケアに取り入れていきます。	日頃のケアの中から出される職員の意見を尊重し、できる限り反映させるように努めている。また、管理者は利用者との馴染みの関係を保っているよう、勤務体制にも配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、それぞれが仲良く働けるような環境、向上心を持って働けるような職場環境をつくるよう、心がけています。また、良い所は褒め、できない事に対してはアドバイスをしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の質の確保、向上に向けて、年間研修計画を立て、個人の力量に合った研修を受講しています。管理者は、職員が働きながら学び、向上していく事に力をいれています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域交流センター主催の会議に参加し、交流を持っています。他施設にも訪問し、サービスの質を向上させていく取り組みを行っています。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	関わりを多く持ち、心から安心して話してもらえよう関係づくりを心がけています。相手を受け入れ、不安や要望を傾聴する事を重要視しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事、不安、要望等を相談し合い、支え合って、信頼関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に、利用者の希望やニーズに対して、どのようなサービスが必要かを話し合い、必要な支援を見極め、利用者や家族に選択していただいています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者には、得意分野(掃除、配膳、お盆拭き等)で力を発揮していただいています。また、介護員が知らない事等を知らせていただく等、家族的な関係を築いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の家族の元に、広報やお手紙で利用者の近況を伝え、訪問時には家族の悩みや希望を聞き、利用者を共に支える関係づくりをしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所へは、度々、お花見やドライブに出かけています。八森山、風合瀬いか焼き村、保育園、また、小学校や中学校の運動会への参加等、馴染んできた人や場所への支援を継続しています。	利用者がこれまで関わってきた人や馴染みの場所等を把握しており、必要に応じて家族の協力を得て、利用者の希望を叶えるように支援している。また、ドライブや通院、買い物に同行する他、利用者の行きたい場所へ立ち寄っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	部屋で寝ていようとする人がいますが、皆で過ごす事の大切さを学び、共に生きていく喜びを知っていただけるよう、支援に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も相談や支援に応じ、経過のフォローに努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らしの希望が、本人の意向に添うように努めています。迷った時は、利用者の視点に立ち、思いを感じ取って、意向の把握に努めています。	職員は日頃から利用者の観察に努め、話を聞いたり、コミュニケーションをとりながら、利用者一人ひとりの意向を把握している。また、友人や知人等の面会時にも、さりげなく情報収集し、利用者の思いや希望を把握するように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者をよく知っている家族や親戚、友人から情報の収集を行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を活用し、一日の過ごし方、心身の状態、暮らしのあり方、どのように力が発揮できているか等について、把握に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らしていけるよう、ケアのあり方について、本人、家族、職員、関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映させ、本人に合った介護計画の作成を行っています。	定期的カンファレンスを開催し、職員全体で利用者の状況を共有しており、利用者一人ひとりがその人らしく暮らしていける介護計画の作成に努めている。職員は日々の関わりの中で、利用者の状態や希望等の変化を把握し、随時、見直しを行いながら、現状に即した介護計画となるように取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の出来事や様子を介護日記に記録し、実践結果、気づきや工夫を取り入れ、職員間で情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて、利用者や家族、地域からのニーズに応えるよう、自主サービスを開発しています。例えば、ホームへの見学送迎や一日体験サービス等です。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署の協力で、避難訓練や救急救命等の講習を行っています。また、地域の婦人会や学生のボランティアに訪問していただき、歌や踊り等を披露していただいています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に定期的受診をし、体調の変化が見られた時は必要に応じて受診できるよう、支援しています。	これまでの受療状況を把握し、利用者や家族の希望する医療機関を受診できるよう支援している。また、受診結果は個人ファイルに記録し、共有化を図っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	地域包括支援センターの看護職員、または受診時の看護職員に相談しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	近くの医療機関と連携を取っており、病院関係者との情報交換や相談できる関係づくりに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の重度化や終末期の対応について、できる事とできない事を家族と話し合い、医療機関と情報交換をし、利用者や家族の意向を尊重しながら、地域の関係者と共に支援に取り組んでいます。	利用者が重度化した場合や終末期の対応について、ホームの方針を明確にしている。ホームでは利用者が適切なケアを受けることができるよう、利用者や家族、関係機関と話し合い、他の施設や医療機関を紹介する等の支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間の対応も含めた緊急対応マニュアルを作成し、全職員が応急手当や救急救命の研修を、毎年受講しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力で、毎年、定期的に避難訓練や救急救命等の講習を行い、地域の方にも協力を求めた体制を築いています。非常時に備えて、備蓄品、ポータブルトイレ等の準備をしています。	夜間想定も含め、定期的に避難訓練を実施しており、職員と利用者が一緒に行っている。また、非常時には近隣住民から協力が得られる体制となっている他、災害発生時に備え、食料や水、毛布等の準備がなされている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の言動を、否定や拒否するような対応をする事なく、まず訴えを受け入れ、安心していただけるような支援に努めています。介助時には、利用者の羞恥心に配慮した言葉かけや対応を心がけています。	利用者を人生の先輩として尊敬し、一人ひとりの生活スタイルや要望を大事にしており、常識的かつ適切な声かけを行っている。また、介助時には周囲に知られないように配慮し、プライバシーの保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との関わりの中で、希望や自己決定を促す場面をつくり、十分に意思表示できない人に対しては、本人の思いを感じ取り、できるだけ満足の得られる支援をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に考え、本人の立場に立って視点を置き、本人の意向に沿うように努めて支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗顔、髭剃り等は声かけにより支援しています。爪切り等、一人でできない方には介助者が定期的に介助、援助をしています。整髪は本人の希望により、支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	山菜や施設で採れた野菜等を取り入れ、下ごしらえや後片付けも一緒に行っています。職員も利用者と一緒に食事を摂り、会話をしたり、楽しみながら食事をしています。	地元の野菜や魚を調理し、山菜や季節の旬の食材も使われており、手作りのおいしい食事が提供されている。また、職員も利用者と同じ席に着き、同じ食事を摂っており、食事の味付けや食材について会話しながら、楽しい食事時間となるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の総摂取カロリーを概ね1,300～1,400kcalとして、一日の水分の摂取量を1,000～1,500cc摂るように支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの必要性を全職員が理解し、毎食後に口腔内の洗浄や入れ歯の手入れを行うよう声がけをし、また、一緒に行う等、一人ひとりの能力に応じた支援を行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、事前にさりげないトイレ誘導を心がけ、行っています。利用者の失禁、おむつ交換の際には、尊厳保持に配慮しています。	排泄記録を基に、利用者一人ひとりに応じた支援を行っている。できる限りおむつを使わないよう、日中は声がけしてトイレでの排泄を支援しており、排泄の自立に向けて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	メニューに工夫を取り入れ、水分を十分に摂るよう配慮し、廊下歩行等の運動活動量を把握して支援に努め、便秘予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴は週3回、当日の心身状態を観察しながら行っています。入浴を拒否する利用者については、言葉がけを工夫しながら、入浴を促しています。	利用者の習慣や希望も取り入れながら、できるだけ入浴していただくように配慮しており、必要に応じて、シャワー浴や足浴、清拭等の対応も行っている。また、利用者には自立支援のため、自分で洗身してもらい、その後職員が介助する方法をとっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握し、その人に合った活動量や休息を取り入れ、気持ちよく眠れるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬の説明書を使用し、利用者の薬の内容を理解しています。変化や異変があった場合には、申し送りノートに記入して共有し、対応しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の生活歴の中で、本人が楽しいと思える役割や場を提供しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日にはできるだけ外出し、散歩を楽しんでいます。利用者の希望により、ドライブや買い物にも応じています。利用者の排泄状況や心身の負担にならないよう配慮し、出かけています。	ドライブや行事を多く取り入れ、天気の良い日は敷地内の庭園で寛いだり、近隣を散歩する等して、利用者の気分転換を図っている。また、職員が食材の買い物に出かける際は利用者も同行する等、できるだけ外出する機会を確保している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は個々の状態を把握しており、個々に合った金銭管理を行えるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人への電話や手紙でのやり取りを行っています。自らできない人に対しては、介助者側が本人に代わって代弁しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は、居室より皆でホールで過ごす時間が多く、ゆっくり寛いでいます。施設は木々に囲まれ、季節の移ろいを堪能できる場所にあり、過ごしやすい環境づくりに努めています。	木材がふんだんに使われ、温かみのある建物であり、ホーム内は換気や温度・湿度の調整がなされ、利用者が過ごしやすい環境を提供している。職員の立てる物音や声、テレビの音量も適切で、ホーム内の明るさも照明やカーテン等で調節されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファが設けられ、全員で団欒できるスペースがあります。一人で過ごしたい時は、自室でゆっくり休み、また、皆の所に来るという日々を送っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者はホールで過ごす時間が多いですが、利用者の居室には馴染みの品が持ち込まれ、安心できる空間づくりに配慮しています。	居室には椅子やテレビ、写真等、利用者の愛用していた物が持ち込まれ、それぞれに応じた居心地の良い居室づくりを行っている。また、居室への持ち込みは自由で、家族や職員が協力しながら、利用者が過ごしやすいように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を考慮し、手すりの設置、転倒につながる原因の回避、生活場面での環境改善の工夫をしています。		